令和８年度 全国学力・学習状況調査　結果概要

羽曳野市立高鷲南小学校

１ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２ 調査の対象　　第 ６ 学年児童（６８名）

３ 調査の実施日　令和８年 ４月 ２３日（木）

４ 調査の内容

（１）教科に関する調査：国語・算数

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識･技能等

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（２）学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

５　調査結果の取扱い

○　調査結果の分析･考察を踏まえ、教育指導等の改善に向けて計画的に取組みます。

○　家庭や地域とも成果と課題を共有し、改善につなげていくよう努めます。

○　調査結果は中学校区でも共有し、共通で取組める内容について検討・実践してまいります。

○　以下の点についてご理解ください。

調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

（「令和８年度全国学力・学習状況調査実施要領）より）

6 調査結果の考察

（1）各教科調査結果・児童質問紙調査(教科に関する項目)から

国語について

成　果

〇一部問題の無回答率の改善が見られ、特に記述式問題において粘り強く問題を解こうとする意識が見られる。

〇「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか」といった、国語の学習に関する質問において肯定的回答の割合が大阪府・全国平均を上回っている。

課　題

▲「書くこと」に関する問題において平均正答率が低い結果が続いており、特に情報を引用して書くことに課題が見られ、条件を満たさずに回答している割合が高い。

▲情報を整理したり関連付けたりする問題において、平均正答率が低い。

算数について

成　果

〇国語と同様に、一部問題の無解答率の改善がみられる。基礎的な問題、記述式の問題どちらにおいても、一部無回答率が大阪府・全国平均ともに下回っている。

〇「算数の勉強が好き」「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」という質問に対する肯定的回答の割合が大阪府・全国平均ともに上回っている。

課　題

▲平均正答率が、大阪府の平均より低い問題が多い。今年度はグラフや表を読み取るといった「知識・技能」に関する問題について、特に課題がみられる。

▲例年「思考力・判断力・表現力」に関する問題の平均正答率が低い傾向が続いている。特に記述式の問題については何らかの解答を記入しているが、必要な言葉や式を書いていない、解答に必要な条件を満たしていないといった課題がみられる。

（2）児童質問紙調査結果から

成　果

〇「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」といった生活習慣に関する項目において、肯定的回答の割合が大阪府・全国平均より高い。

〇「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」といった項目において、肯定的回答の割合が大阪府・全国平均より高い。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができていますか」といった協働的な学びに関する質問において肯定的な回答の割合が大阪府・全国平均より高い。
○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」など、先生に対する質問の項目において、肯定的な回答の割合が全国平均・大阪府平均より高い。

課　題

▲「将来の夢や目標を持っていますか」に対する、肯定的な回答の割合が、全国平均・大阪府平均に比べて低い。
▲「学校の授業以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」や「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」において、学習時間が短い児童の割合が高く、特に「全くしない」という回答の割合も大阪府・全国平均より高い。
▲授業時間以外の読書の時間が短い。
▲「普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」、「ICT 機器を使って情報を整理することができると思いますか」といった ICT 機器の活用における質問項目において、肯定的な回答の割合が、全国平均・大阪府平均に比べて低い傾向にある。



本校公式キャラクター
「たかにゃん」

これらの課題克服に向けて

1　自己肯定感・非認知能力をさらに高めるために

（1）教育活動全般を通して、自己肯定感を高めるようにする。そのために、教職員は子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な言葉づかい、プラスの言葉かけに一層努める。

（2）会議や研修を通して子ども理解を一層すすめるとともに、相談ポストの設置やカウンセリング週間の定期的実施など、学校組織全体での取組みを継続する。

（3）課題を最後までやり切ることを徹底するよう指導する。粘り強く課題に向き合う過程の大切さを価値づける。

（4）人権学習やキャリア学習を推進させ、たくさんの出会いを通して、将来の夢や目標をもち、自分の成長や良さを実感できる機会を増やす。

2　学習習慣・学びに向かう力を高めるために

（1）家庭学習の手引きを活用した指導を継続し、3年生以上では自主学習を推進する。土日曜日を含めて学年に応じた時間を学習する習慣が身に付くよう指導を継続し、保護者への啓発を継続する。

（2）学校司書とさらなる連携を図り、日々の読書活動の充実や、うちどくカードをはじめとした読書月間の取組みなどを引き続き推進していく。

（3）ICT を用いた家庭学習を充実させていく。学習アプリ（ドリルパーク）などの計画的・組織的な活用に加え、クラスルームを通じた資料や課題の配信などを通じて、子どもたちが自主的に調べたり、学習を振り返ったりする機会を増やしていく。また、情報活用能力だけでなく、情報モラル教育についても一層充実を図る。

3　書く力・ことばの力を高めるために

（1）情報を適切にとらえ、必要に応じて整理・引用し、自らの考えで分かりやすくまとめたり、伝えたりする学習活動を意識的に取り入れる。

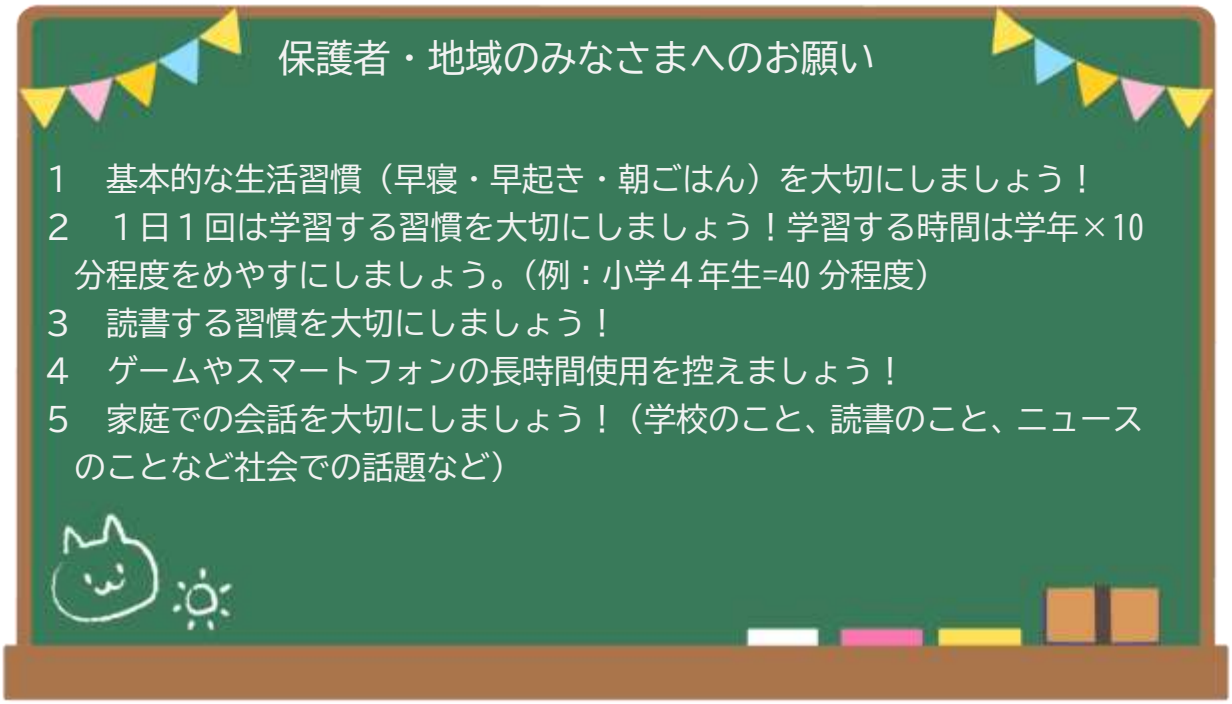
（2）各教科の授業では、言語活動の活性化をめざし、児童が学習したことを表現する機会を多く取り入れる。

4　数学的な見方・考え方を高めるために

（1）基礎的な知識・技能の定着を図るために、朝の時間に行う「朝の学習タイム」を一層充実させる。学習アプリ（ドリルパーク）を計画的・組織的に活用し、個別最適化した学びにつなげていく。

（2）文章問題では、問題文から課題解決に必要な情報をつかむ学習活動を重視する。

（3）考えた過程や理由を言葉や式、図表で表現する活動や、課題解決に向けて粘り強く取組む時間を大切にする。



（参考資料①）羽曳野市の結果概要

（参考資料②）大阪府の結果概要